

平成27年第1回砂川市議会定例会
第1予算審査特別委員会

平成27年3月9日（月曜日）第1号

開会宣告

正・副委員長の互選

開議宣告

議案第 1号 平成26年度砂川市一般会計補正予算

議案第 2号 平成26年度砂川市国民健康保険特別会計補正予算

議案第 3号 平成26年度砂川市下水道事業特別会計補正予算

議案第 4号 平成26年度砂川市介護保険特別会計補正予算

議案第 5号 平成26年度砂川市後期高齢者医療特別会計補正予算

議案第 6号 平成26年度砂川市病院事業会計補正予算

散会宣告

○出席委員（12名）

委員長 辻 勲 君
委員 一ノ瀬 弘 昭 君
増 山 裕 司 君
多比良 和 伸 君
小 黒 弘 君
尾 崎 静 夫 君

副委員長 水 島 美喜子 君
委員 飯 澤 明 彦 君
増 井 浩 一 君
土 田 政 己 君
北 谷 文 夫 君
沢 田 広 志 君
(議長 東 英 男)

○欠席委員（0名）

○ 第1予算審査特別委員会出席者 ○

1. 本委員会に説明のため出席を求めた者

砂 川 市 長 善 岡 雅 文
砂 川 市 監 査 委 員 奥 山 昭

2. 砂川市長の委任を受け説明のため出席する者

副 市 長 角 丸 誠 一
総 務 部 長 湯 浅 克 己
兼 会 計 管 理 者
総 務 課 長 安 田 貢

市長公室課長
 政策調整課長
 政策調整課副審議監
 税務課長
 会計課長
 市民部長
 市民生活課長
 社会福祉課長
 兼子ども通園センター所長
 介護福祉課長
 兼ふれあいセンター所長
 経済部長
 経済部審議監
 商工労働観光課長
 農政課長
 建設部長
 建設部技監
 土木課長
 建築住宅課長
 建築住宅課副審議監
 病院事務局長
 管理課長
 管理課副審議監
 経営企画課長
 医事課長
 地域医療連携課長
 診療情報課長
 附属看護専門学校副審議監

福士勇治
 熊崎一弘
 為国修一
 峯田和興
 福井哲生
 高橋豊人
 東正
 近藤恭史
 中村一久
 佐藤進
 田伏清巳
 河原希之
 小林哲也
 古木信繁
 山梨政己
 荒木政宏
 佐藤武雄
 金丸秀樹
 氏家実彦
 渋谷和正
 渋谷裕人
 佐々木紀二
 朝日博
 山田基
 山川和弘
 細川仁

3. 砂川市教育委員会委員長の委任を受け説明のため出席する者

教育長
 兼教育次長
 兼スポーツ振興課長
 学務課長
 社会教育課長
 兼公民館長
 兼図書館長

井上克也
 和泉肇
 大西俊光
 山下克己

- | | | |
|----------------------------------|----|-----|
| 学校給食センター所長 | 橋 | 加奈子 |
| 4. 砂川市監査委員の委任を受け説明のため出席する者 | | |
| 監査事務局局長 | 中 | 利明 |
| 5. 砂川市選挙管理委員会委員長の委任を受け説明のため出席する者 | | |
| 選挙管理委員会事務局長 | 湯 | 浅克己 |
| 選挙管理委員会事務局次長 | 安 | 田貢 |
| 6. 砂川市農業委員会会長の委任を受け説明のため出席する者 | | |
| 農業委員会事務局長 | 佐 | 藤進 |
| 農業委員会事務局次長 | 小 | 林哲也 |
| 7. 本委員会の事務に従事する者 | | |
| 事務局局長 | 河 | 端一寿 |
| 事務局次長 | 高 | 橋伸二 |
| 事務局主幹 | 佐々 | 木純人 |
| 事務局係長 | 杉 | 村有美 |

開会 午後 2時18分

◎開会宣告

○議長 東 英男君 ただいまから第1予算審査特別委員会を開きます。

◎正・副委員長の互選

○議長 東 英男君 お諮りします。

正副委員長の互選については、慣例により私から指名することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、私から指名します。

第1予算審査特別委員長には辻勲委員、同副委員長には水島美喜子委員を指名します。

休憩 午後 2時18分

〔委員長 辻 勲君 着席〕

再開 午後 2時19分

○委員長 辻 勲君 ここでお諮りします。

本日の委員会に村上新一氏から委員会傍聴の申し出がありました。このことについて許可することに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、委員会傍聴を許可することに決定しました。

暫時休憩します。

休憩 午後 2時20分

再開 午後 2時20分

◎開議宣告

○委員長 辻 勲君 直ちに議事に入ります。

○委員長 辻 勲君 本委員会に付託されました議案第1号 平成26年度砂川市一般会計補正予算、議案第2号 平成26年度砂川市国民健康保険特別会計補正予算、議案第3号 平成26年度砂川市下水道事業特別会計補正予算、議案第4号 平成26年度砂川市介護保険特別会計補正予算、議案第5号 平成26年度砂川市後期高齢者医療特別会計補正予算、議案第6号 平成26年度砂川市病院事業会計補正予算の6件を一括議題とします。

お諮りします。審査の方法としては、まず一般会計より行うこととし、歳出を款項ごとに、続いて繰越明許費、地方債補正及び歳入の審査の順で行い、次に特別会計の歳入歳出、事業会計の収入支出を一括審査する方法を進みたいと思います。このことにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

初めに、議案第1号 平成26年度砂川市一般会計補正予算の歳出から審査に入ります。それでは、74ページ、第1款議会費、第1項議会費について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に進みます。76ページ、第2款総務費、第1項総務管理費、質疑ありませんか。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 2点あります。79ページのホームページシステムの導入事業について、まず。

先ほどの提案説明では誰もが支障なく利用できるという話だったのですが、全体的に変わっていくのか、誰にもというのは職員の誰にもなのか、市民の誰にもなのか、その辺をまずお伺いします。

○委員長 辻 勲君 市長公室課長。

○市長公室課長 福士勇治君 ホームページシステム導入事業についてのご質問です。誰もが支障なく利用できるというその誰もがというところでございますが、ここで言っているのは高齢者ですとか障害者とか、要は高齢者の方というのは字が大きいほうが見やすいでしょうし、障害者、特に視覚障害のある方につきましては色合いの変化というところもできるような、そんな利用の仕方ができるようにということで、高齢者や障害者も含め誰もが利用しやすいということで想定しております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 特色的に、今のは大きな特色だろうというふうに思うのですが、今までは何か自前でやっていて、随分そのことがよかったみたいですが、これからはプロに頼んでやってもらうということになるのですか。

○委員長 辻 勲君 市長公室課長。

○市長公室課長 福士勇治君 今までは無償のソフトウェアを利用してございまして、できる範囲で工夫しながらやっていたところでございますが、今後は業者に作成委託をしまして、今までも利用しやすいという声もあったのですが、例えば字を大きくするにしましても、表示というところから文字のサイズを変えとかという手間がかかっていたりしましたけれども、そういったものもトップページの中で字の大きさをすぐ変えることができるようにとか、そういったより見やすい、利用しやすいホームページにしていきたいと考えております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 わかりました。

次は83ページの先ほど総括でもありました地方版の総合戦略策定事業というやつなので、けれども、どうも今の総括でも僕はちょっとわかりづらかったのですが、いろ

んな数値があったり、P D C Aサイクルとかとわからないような言葉も出てきて、結局先ほどはいろいろな砂川市にある計画とどういうふうな整合性をというような質疑もあったのですけれども、そもそも我がまちは第6期総合計画の最中でありまして、ここの関連というのはどういうふうになっていくのかというのをまずお伺いします。

○委員長 辻 勲君 政策調整課長。

○政策調整課長 熊崎一弘君 地方版総合戦略の策定に当たっての現行の長期計画、第6期総合計画との関係というご質問でございますけれども、あくまでも砂川市の最上位計画、第6期総合計画は最上位計画でありますので、位置づけについては変わりありません。その中で今回地方版の総合戦略というものにつきましては、国で2060年を目標とした人口ビジョンというのを策定しまして、それに目標とした総合戦略を国で決めました。砂川市も同様に砂川市の人口のビジョンを2060年を目指しながら作成するわけですけれども、特に人口減少対策の部分で集中的に検討しなければならないことがあるので、5年間にわたる事業計画ということで地方版総合戦略を立てると。うちの第6期総合計画の下位計画といいたいでしょうか、そういうようなイメージで考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 市長も新年交礼会などではこのことに触れられて、今後はまちの道しるべになるというふうなお話もあったわけですけれども、そのとき我がまちは第6期総合計画ではないかなと思っただけですけれどもね。特にこの人口ビジョンとか人口分析というのが今回大きな位置になっていくのかなというふうに思っているのですけれども、これってただただ人口が例えば減少に推移していかどうか、今まであった国立人口何とかというところの推計というのは第6期でも使ってきましたよね。それ以外にもっと幅広い分析というのが行われるようなことになるのかどうかをお伺いします。

○委員長 辻 勲君 政策調整課長。

○政策調整課長 熊崎一弘君 人口ビジョンの関係でございますけれども、今まで各種計画に使用してきた人口推計、これは当然一定の機関、国の機関等でそれぞれ推計されたものを根拠に、砂川市の人口動態などを見ながら推計してきたものでございます。基本的な考え方は変わらないのですけれども、やはり人口に特化した形で今後計画を立てていく、雇用創出もそうですし、子育てもそうですけれども、そういう部分で特化して新たな計画をつくるわけですので、やはりその計画に基づいて人口を、今であればふやすという言い方はなかなかできないかもしれませんが、減少に歯どめをかけるというふうな形で事業を策定していくわけですので、そういう部分も含めて人口ビジョンの中に加わる。当然単純な今までの何年間の人口動態を見ながら今後を推計するのではなくて、新たな事業も含めた形で人口の下がり方を減らしていこう、出生率が上がれば当然人口は下がっていかなくなるという部分もございまして、そういうものを総体的に考えながら策定していくものでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 まず、分析があって、その分析に対してどういうふうになればその分析どおりになっていかないのか、推計どおりになっていかないのかということになると思うのです。何かそこが今はごちゃごちゃになっているのではないかなというふうに思うのですけれども、このままでいけば人口200人ずつ1年間減って行って、最近では300人ぐらいにそれがふえていっているというのは、きっとどう分析しても同じようなものができてくるのだろうというふうに思うのです。それよりも例えばどの地域に高齢者が多いとか、あるいは子供たちがどの地域に多いのだとか、これはちょっとあれなのだけれども、その地域によっていろいろな特色が砂川のまちにもあると思うのです。第6期ではなかなかそういう分析ってされてきていないのですけれども、そうすることによっていろんな施策が生まれてくるような私は気がするのですけれども、ただ全体的に全市的にやっていくばかりではなくて、もう高齢者だったら町内会単位ではっきりと地図に落とせるぐらいに原課では調査をしているのだろうというふうに思うので、そういうのを総合的に白い地図の中にいろいろ落とし込んでいくみたいな作業をされると、まさに今後の砂川市がどういうふうな形で動いていけば、どこにポイントを当てていけばどういうふうになっていくのかというのがわかりやすいのではないかと思うのですけれども、そんなふうなお考えというのではないのでしょうか。

○委員長 辻 勲君 政策調整課長。

○政策調整課長 熊崎一弘君 人口推計の捉え方かと思えますけれども、現段階ではやはり砂川市全体の形、特に年齢区分ですとか、5歳刻みでどのぐらいの人口がいるですとか、そういう部分の中で分析しながら進めていくというのが基本的な人口ビジョンの立て方となっております。地域、地域で特色はそれぞれあると思えますけれども、やはり全体で今必要なもの、子育てにしても、創業支援にしても、人がここで住める部分をどうつくっていくかの前段の人口ビジョンというふうな考え方しておりますし、そのビジョンをつくるに当たっては施策がどういうふうになっていくかも加えながら将来展望をするというような予定となっておりますので、地域ごとの人口分析については今のところ考えていないというのが実態でございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 国が求める地方創生というのは、まさに今までのものとどう違って我がまちを分析し、先につなげていくかというふうに私は思うのです。例えば北光小学校の複式化をどうとめていくかということになれば働く子育て中の人たちがそこに住んでもらえるような施策をしていけば、わざわざ先生雇うのに500万払わなくても済むかもしれないわけですよね。それがまさに今後の各地域での人口のあり方、年齢のあり方、今現状と、それからこの先それをどうしていくのかということが地域創生につながるのではないかと思うのですけれども、何か日本全国同じような地方版の総合戦略が生まれても国は喜ばな

いのではないかなとは思っているし、何か違うことやってみたらいいのではないかと思うのですけれども。せっかくこの600万使うのだから。今までの課長がおっしゃった話だったら、大体第6期総合計画のときにやっているだろうと思うのです。何でそういうふうにならなくて何かしてみようと思わないのですか。

○委員長 辻 勲君 政策調整課長。

○政策調整課長 熊崎一弘君 いろいろご意見をいただいたようではありますが、これから策定に当たって市民のご意見も頂戴しますし、当然議員さんのご意見も頂戴したいと思いますので、その辺は策定に当たって参考にさせていただければと思いますし、物を聞くということについては現行予算で十分対応できるものと考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 1つだけ言わせていただいております、今のうちに。

例えば札幌の会社あたりだと、4年ごとに国勢調査というのがありますよね。あそこには年収から、もちろん地域ごとの男女別から全部分析できるというところがあるわけです。今回は特に、その会社がどうのという意味ではなくて、そういう国勢調査一つだけとってみてもいろんな分析というのできると思うので、ぜひ今までとは違ういろんなやり方をトライしていただければなというふうに思います。答えはいいです。

以上です。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続きまして、88ページ、第2項徴税費、発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

同じく続きまして第3項戸籍住民基本台帳費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

同じく第4項選挙費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

92ページ、第5項統計調査費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

同じく第6項監査委員費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

94ページ、第3款民生費、第1項社会福祉費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続きまして、102ページ、第2項児童福祉費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

110ページ、第3項生活保護費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

112 ページ、第4款衛生費、第1項保健衛生費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

116 ページ、第2項清掃費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

118 ページ、第5款労働費、第1項労働諸費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

120 ページ、第6款農林費、第1項農業費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

122 ページ、第2項林業費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

124 ページ、第7款商工費、第1項商工費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

128 ページ、第8款土木費、第1項土木管理費、質疑ありませんか。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 1つだけお伺いします。

129 ページの道路橋梁の維持に要する経費で光熱水費の270万、これは何かさっきのだと、どうもちょっと気になるのはロードヒーティングの電気代がこれだけプラスになったのかなという感じはするのですけれども、いかがでしょうか。

○委員長 辻 勲君 土木課長。

○土木課長 荒木政宏君 道路橋梁の維持に要する経費の光熱水費についてのご質問でございますが、273万1,000円の増でございます。これにつきましては、大きく分けて2点でございます。道路照明の電気料金及び北2丁目通りを初めとする電気で行っているロードヒーティング、これの電気料でございますが、11月1日からの北電さんの値上げに伴いまして、算定し直して値上げ分を計上させていただいたところでございます。

○小黒 弘委員 ちなみに、ちょっとその中身を教えてくださいませんか。

○土木課長 荒木政宏君 道路照明につきましては660本ほどございまして、当初予算では1,120万ほど計上させていただいておりますが、このたびの補正では約1,260万に上げさせていただいております。

それから、北2丁目通りのほかロードヒーティングがあかね団地の入り口のところでございます。それから、南1丁目にもございます。それから、自由通路もございます。ということで4点ございますが、こちらのロードヒーティングの費用が当初予算では720万ほど上げさせていただいておりますが、このたびは約860万ということで、合計273万円の増とさせていただいたところでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 11月からとおっしゃったのですよね。11月から3月まで。

○委員長 辻 勲君 土木課長。

○土木課長 荒木政宏君 電気料金の値上げは11月1日からでございますので、11月から3月までの分でございます。

○委員長 辻 勲君 他に発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続きまして、同じく第2項道路橋梁費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

130ページ、第3項河川費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

同じく第4項都市計画費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

132ページ、第5項住宅費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

136ページ、第9款消防費、第1項消防費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

138ページ、第10款教育費、第1項教育総務費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

同じく第2項小学校費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

140ページ、第3項中学校費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

144ページ、第4項社会教育費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

148ページ、第5項保健体育費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

152ページ、第6項給食センター費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

154ページ、第11款公債費、第1項公債費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

156ページ、第12款諸支出金、第2項特別会計繰出金、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

158ページ、第13款職員費、第1項職員費、質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、8ページ、第2表、繰越明許費について質疑ありませんか。ありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

続いて、9ページ、第3表、地方債補正について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、歳入に入ります。14ページから72ページまで質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第1号を採決します。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第2号 平成26年度砂川市国民健康保険特別会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第2号を採決します。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第3号 平成26年度砂川市下水道事業特別会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第3号を採決します。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第4号 平成26年度砂川市介護保険特別会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第4号を採決します。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第5号 平成26年度砂川市後期高齢者医療特別会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。歳入歳出一括して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第5号を採決します。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

続いて、議案第6号 平成26年度砂川市病院事業会計補正予算の審査に入ります。

これより質疑に入ります。収入支出一括して質疑ありませんか。

小黒弘委員。

○小黒 弘委員 先ほど総括質疑でもしているのですが、もうちょっと細かくお伺いしたいなというふうに思います。

先ほど25年度の決算と比べて給与費、あるいは入院が減っているのに材料費は、若干だけでも上がっている。それから経費も25年度の決算と比べると約1億5,000万ぐらい上がっている結果になっているのですが、この辺の要因というのはどうなのかお伺いします。

○委員長 辻 勲君 経営企画課長。

○経営企画課長 佐々木裕二君 材料費の中で薬品費に関しましては、去年と比べますと12月、1月ぐらいに80%ぐらい病床利用率が上がったのです。その関係もありまして、内服だとか注射薬が若干伸びていると。25年と比べますと患者数もその部分では外来だとかも伸びているものですから、内服、注射薬の部分でふえております。

それから、材料費のところ、院内感染の関係からフェースタオルですとか、今までは洗濯をしていたのですが、これをディスポ化といって使い捨てに変えています。その部分が25年と比べますと伸びているのかなというふうに分かっているところがございます。

経費につきましては、26年4月に新たに院長先生が発令になった、それから各室長も発令されたということで、そちらのほうの部屋の備品類ですとか、そういうものが若干ふえている。それから、経費の中の賃借料の部分で器械器具、これが先生の要望もありまして睡眠時無呼吸症候群治療器、この辺を賃借しながら治療をしていたということでございます。その部分が25年と比べると多くなっているのかなと。

○委員長 辻 勲君 管理課長。

○管理課長 渋谷和彦君 それでは、私のほうから給与費のことについて回答させていただきます。

25年度の決算と26年度の決算見込みを比較しますと、2億7,000万ほど給与費で増加しているものというふうに思っております。この主な要因としましては、医師につきましては減少しておりますが、看護師、それから医療技術員、それぞれこの辺を増員しております。詳細を言いますと、看護師が4名ほど増加している、医療技術員についても5名ほど、それから労務員、介護福祉士、このあたりが4名ほど25年度よりも増員したところでございます。この辺の増員による対医業収益費が4ポイントほど決算同士で比較すると上昇したところでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 給与の場合、医師が減したけれども、看護師等が本当に数名ずつでもふえると2億7,000万もいくものなのですね。これって大変なことだなという感じはするのだけれども、今の病院に行くと検査が物すごく早いです。待つことなんてまずないというぐらいにスムーズなのだけれども、検査した後が長いのです。これって患者にとってみると、きょうは早いぞと。でも、その後がすごく長いからかえって、もうちょっと検査をずるずるとやっていると、待ち時間というのが検査がかかっているからしょうがないかというふうになるのだけれども、そこのところって全体的にどうしていくと患者さんにとってストレスにならないのかと。今の技術屋さんたちが5名ふえたというのは検査なのかどうかわからないのですけれども、もちろん看護師たちはふえることによって、さっきの市長ではないけれども、よく医者が1億5,000万、看護師1人当たり何千万稼ぐみたいな話であるのだけれども、その技術職の人たちというのはいまうまくサイクルをするためなのか、あるいは何ほかでも点数に反映していくのかとか、ほかに介護福祉士さん

たちも雇ったりなんかしているわけで、やっぱりこの部分ぐらいまでは、2億7,000万といたら結構な金額なので、どうしても最低限必要な方々になっているのかどうかという点をお伺いしたいと思います。

それと、経費の関係ですけれども、これも先生方が個別の部屋をつくるということを望まれたので、何かをしたのでしょうか。とにかく病院というのは、何かちょっと事を動かすだけで何千万とか億単位ということが起こるのか、普通感覚だとなかなかそういうふうに思えないのですけれども、現実的にはそうなのかどうかお伺いしたいと思います。

○委員長 辻 勲君 管理課長。

○管理課長 渋谷和彦君 それでは、私のほうから給与費の関係について答弁させていただきます。

先ほどちょっと説明不足の部分もあったのですが、2億7,000万の内訳としましては、本年度は給与改定等もございましたので、こちらのほうで一応5,000万ほど上昇しているところでございます。それから、医師が減になった分、短期出張医師というのがふえております。また、産婦人科の当直、これにつきましても月末当直をお願いする、うちの医師の負担軽減ですね、そういった意味で大学のほうに依頼して来てもらっております。それから、歯科も週1回のところを2回といったことで、特にがんの患者さんの口腔ケアということで充実させてきたところでもございます。そういったことによりまして、まずこのあたりの給与費がアップしたといったことになっております。

あと、検査等ずるずるといって患者さんがそれで果たしていいのかということなのですが、うちのシステムとしましては、まず診察に入るときに問診をかけまして、事前に医師のほうからオーダーが出ている場合もありますので、まずは検査を行ってもらう。その検査の結果が出るまでにはしばらく時間がかかりますので、その間はちょっとお待ちいただくといったスタイルになっておりますので、どちらがいいかというところをやっぱり先に検査をして、データを持ってお医者さんの診断を受けると、そういった流れがよろしいかというふうには考えてございます。

○委員長 辻 勲君 経営企画課長。

○経営企画課長 佐々木裕二君 まず、フェースタオルの関係ですけれども、毎日使うものですから、1日当たり患者さん1人に2枚、3枚も使うのでしょうか、そういうのを考えるとやはり年間通せば億になるのかなというふうには考えております。

あと、薬品の関係で、12月、1月ごろに患者さんがふえたというのがあって、その中でもまたがんの治療の患者さんが一月に1人ふえると大体400万ぐらいふえる計算になりますので、そのときに若干そういう患者さんがふえたというののもあって、薬品費も上がっているような状況でございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 最近、病院が何か改築前に戻っているという気が僕はするのですけれど

も、いろんなところからいろんな声が聞こえるようになってきたのです。開院した当時というのは、そういう声ってすごく少なかったです。開院する前というのは、看護師の声とかいろんな声って聞こえてきていて、それを一般質問したり、いろんなことをしていたのですけれども、最近何かまた妙にそういう声が聞こえてきたりするのです。全く病院経営なんかに関係ない人から、患者さんですよ、病院って大丈夫なのと言われることがあるのです。それは何かというと、治療を受けていてぐあいが悪くなってしまった。休んでいると看護師たちの声が聞こえてくる。誰々さんやめるのだからってみたいな話で、うちの病院大丈夫かしらと。これって統制がとれているとかとれていないとかという問題ではなくて、もしかしたらみんなが不安を感じてしまっているのではないかと思うのです。

もう一つは、例えば若い看護師さんたちを大事にするのはいいのだけれども、その人たちに技術や何かを伝達するために教育をしていかなければいけないわけでしょう。そうすると、テレビなんかでもやっているのだけれども、若い人たちは注意を受けたり、文句を言われたりするとすぐやめるだとか、落ち込んでしまったりとかということがあるようで、いかにしつけをするか、上手に若い人たちを教育していかないと、逆に今度は言う側がストレスになって大変な状況になるというふうなテレビ番組なんかもあるのだけれども、いつも募集しているし、最近ではかなり高齢な看護師さんも採ろうというような動きもあったりするのですけれども、今の看護師さん事情ってどういうふうになっているのかなというふうに思うわけです。何かオープン記念の時期が過ぎて、そろそろみんながちょっとだれ始めてきているのかなという気もしないでもないのだけれども、そんなことって内部にいて感じるということというのは全くないですか。

○委員長 辻 勲君 管理課長。

○管理課長 渋谷和彦君 看護師さんの今の状況というか、そういったことのご質問だと思うのですが、看護師の不足につきましては、全国的に7対1看護が始まってからずっと続いているような状況になっております。当院も附属の看護学校を持っておりますので、そこから毎年二十数名の看護師を採用するといったことでまだまだそういったいい面もあるのですが、やはりその看護師だけでは足りないといったこともありますので、各種学校とかに求人活動をしているところでもございます。

ただ、看護師が今どのような状況かといいますと、上の看護師から教育を受けて、昔であればそれに従って看護を実践してきたところではございますが、なかなか今の若い看護師さんというのは昔の看護師さんとはちょっと違うところもあって、委員さんがおっしゃるとおり少しきつく指導をするとめげてしまう心の弱い看護師ですとか、そういった方も見受けられます。ただ、そういったことも上部の看護師には十分説明をした中で、今の看護師に合った教育ということで、今実際に副看護部長を中心に教育をしているところでもございますし、今の当院の離職率というのは全国的に見るとそれほど高くない、9.3%ぐらいの離職率ですが、全国的にいけますと11%ぐらいの離職率があると。そういった

ところでいきますと、当院のほうはまだまだ働きやすい環境にはあるのかなというふうには考えているところでございます。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 最後に、予算ですので、ちゃんと予算の質問をしますけれども、先ほどの総括でも診療報酬がマイナスになった、あるいはDPCの関係もきつとあるのでしょうか。今回の補正について大きなマイナスになった要因としての部分ですけれども、一体どのぐらいの影響、額としてどのぐらいになってくるのかということをお伺いをしたいと思います。つまりただ単純に入院患者が減っただけではなくて、ほかの要因、国の施策だとか、病院が努力してもなかなか難しいというものがあつたのだらうとも思うわけです。その部分って、大ざっぱでいいですけれども、大体どのぐらいになるか数字がわかればお伺いします。

○委員長 辻 勲君 医事課長。

○医事課長 朝日紀博君 診療報酬改定、DPCの分も含めてどのぐらい影響があつたのかということですが、結論から申しますと診療報酬改定の部分だけを絞って、それが幾らマイナス影響であつたのかということを出算するのは非常に困難な状況となっております。例えば26年4月に点数改正がありましたけれども、平成26年の4月から6月を平成25年の4月から6月と比較しても、同じ患者数ではないですし、診療内容も違うということで、それを全て新たな点数に置きかえてやろうとすると、点数改正によって新たにできた項目、それと点数改正によってなくなってしまった項目、それと項目が組みかわってしまったものとかがありまして、それを系統的にコンピューターで計算して出すということができませんので、その部分をやろうとすると全て手作業というふうになってまいりますので、それはちょっと難しいという状況になっております。

ただ、DPCの影響でいきますと、医療機関ごとに係数というのが決められていまして、その影響でいくと4,400万とかという数字は出るのですけれども、それも同じ診療をやった場合に限り係数だけの移動で4,400万ぐらいではありますけれども、DPCにも点数がありまして、それら全て置きかえをするということはちょっと今現状できないところであります。

その中で、26年の4月の診療報酬改定の何が影響が大きかつたのかといいますと、先ほど言いましたように実質消費税込みですけれども、マイナス改定であつたということが病院経営にとって一番大きい影響を受けたというふうに見ております。それと、入院患者は確かに減っているのですけれども、その減っている期間を月別に見ていきますと7、8、9、10の4カ月間、いわゆる夏場の間にぐっと下がりがまして、一番低いときが9月で、病床利用率でいきますと71%まで落ち込んだのです。この夏場の落ち込み分を吸収できていないというのが現状であります。なので、10月中盤以降は75%近い病床利用率も確保してございますし、あとは11月からですけれども、地域包括ケア病棟というのを道

内の自治体病院としては初めて設置をいたしました。11月、12月、1月、2月、この4カ月間の地域包括ケア病棟の収益的効果を見ますと、地域包括ケア以外の病棟にいたときと地域包括ケア病棟にいたときの点数の差は1,450万円ぐらい今プラスで出ていますので、粗い計算ですけれども、年間4,000万ぐらいの収益、地域包括ケア病棟を設置したことによる収益増というのは図られるものと考えております。

以上です。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 患者数ってずっとある程度変わっていないと思うのです。上下はもちろんあるけれども、うちの病院って前から500床以上あったわけで、こんなにコンピューターが発達していないときでも今みたいに診療報酬がマイナスになったら幾らぐらいの影響額がありますと答えているのですよね。今はコンピューターなので、もちろんわかりますよ、これがなくなって、これができた、これがもしあった場合どうだということね。でも、多分手作業だったらできるのだろうというふうに思うのですけれども、今の答えでいくとね。でも、そういうこともしてみないと分析ってできないのではないのですか。つまり結果だけでこんなに少なくなってしまった、どうしよう、みんな集めて患者ふやすにはどうしたらいいのだろうと相談し合っても、これはなかなか看護師が患者をふやすのどうするのだろうと聞かれたって、看護師は自分の患者を負うだけで一生懸命なのに、経営のことまで聞かれたってということはもしかしたらあるかもしれないし、そこはやっぱり職員方がしっかりと把握して、事業管理者なら管理者に、本当は事業管理者、さっきのお答えはちょっとおかしいと思うのだけれども、確かに医者さんですよ。でも、こういう全適になった以上は、やっぱり経営のほうにしっかりと目を向けていただいてということが絶対必要だと思うのですけれども、そんなことからいけば何でこうなったかというのをどこまで追い込んでいくかということをししないと結果的にはわからないままで、ただただわからないのだけれども、こんなになってしまった、どうしよう。これは、いかにも大きな百何十億ものお金が出たり、入ったりする病院の経営としては何とも頼りないなと正直申し上げて思うのです。今後はこの辺のところをどういうふうに分析をしながら、経営がよくなっていくようにしようと考えていらっしゃるのかをお伺いしたいと思います。

○委員長 辻 勲君 医事課長。

○医事課長 朝日紀博君 まず、前年度との分析でいきますと、診療報酬の影響というよりはこういった患者さんがふえて、こういった患者さんがうちでは減っているのか、つまり本来の当院の強みである部分がちゃんとふえていて、弱みであるところをちゃんとカバーし切れているのかと、そういうのはDPCデータを使いながら今分析をしているところであります。

それで、今後どうするのだということなのだと思いますけれども、患者数を突然ふやせといてもそれはなかなか難しい部分もあります。手術件数も本来どんどんふえていけば当然診療

単価も上がって、収益もふえていくのですが、それもなかなかそういう患者さんがいないとそううまくいかない。その中で、増収対策プロジェクトチームみたいなものを1月以降院内に立ち上げて、今取り組んでいる最中なのですが、そこには事務方も当然入りますし、看護師も入りますし、医療技術員のスタッフも入ります。具体的にどんなことをやっているのかといいますと、例えば入院患者さんへの薬剤指導、本来もっとたくさんやればいいのですが、どうも患者さんの情報が来ないばかりに漏れている。指導が漏れているということです。そういったものもあるだろうと。では、看護師さんと薬剤部の連携をどうしたらうまくとれて、本来薬剤指導をしなければならない人にどうやったら漏れなく指導ができるのかというようなところを多職種で今検討している最中です。ほかにも栄養士さんが患者さんに行う栄養指導であるとか、あとはリハビリの人が退院時に患者さんに指導する退院時リハビリテーション指導料とか、そういう項目を8つぐらい挙げまして、いろんな職種がかかわって、それで効率よくといいたいでしょうか、算定漏れをなくすために今どうしたらいいのかというようなことを検討しておりますし、こういった実情を医局会のほうでも話しております。そうしたところ、ドクターのほうからも我々の科で何か漏れているものはないのかというようなことは医事課のほうにも問い合わせが来ますし、今まで余り経営的にはそれほど積極的でなかった方からもそういった声も聞かれるようになってきていますので、今後そういった部分を強化していきながら収益を確保していきたいというふうに考えております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 最後の質問にします。今、朝日課長が我が市立病院の弱みと強みということを行いました、それを平成26年、この補正予算の中で少し示してもらえますか。

○委員長 辻 勲君 医事課長。

○医事課長 朝日紀博君 予算の。来年度ではなくて。

○小黒 弘委員 全体的にでいいです。

○医事課長 朝日紀博君 当院の強みは、血管系の疾患、脳外科、心臓外科、循環器内科、そこが強みであります。あとは認知症も当然強みであります。弱いところでいきますと、糖尿病というか、内分泌代謝系といいますか、それは隣町にもそういった病院もありますし、開業されている先生方もたくさんおりますので、そこは弱みというか、競合する相手がたくさんいるという部分ではそこら辺をどう集客するのか、それは紹介、逆紹介によってやっていくべきだというふうに考えております。

○委員長 辻 勲君 小黒弘委員。

○小黒 弘委員 最後といいながら、もうちょっと話をしておしかったなというふうに思うのは、今人口が減少して、超高齢化になっていて、老人の病気って意外と慢性系が多いと思うのです。そうすると、うちの急性期というのは、案外今後はちょっと弱みがあるのかなと。逆に高齢者がかかりやすい病気ってあって、例えば耳だとか目だとか、そこって

砂川って弱いと思うのですね。白内障の手術や何かでも隣町に行ったり、札幌に行ったりという話はよく聞く話で、そういう意味での砂川市立病院の強み、弱みって私はもう少しあるように思うのですけれども、それが今回のこの患者の減少、入院患者の減少というものにつながってはいないのかなというふうに思うものですから、できればそこをもう少し聞きたいなと思うのですけれども。

○委員長 辻 勲君 医事課長。

○医事課長 朝日紀博君 この砂川市を含めた中空知医療圏というのは、今後人口も大きく減少していく中、高齢者については余り減っていかないというような人口推計が出されております。それにあわせて医療需要と介護需要がどうなっていくのかというようなものも推計をされているわけなのですが、医療需要につきましては2010年から15年ぐらいの今がピークで、これから下がっていく一方ですと。介護需要につきましては、これから一旦伸びるけれども、今後下がっていくと。そういう意味では、あと先ほど言いましたように高齢者の数がそうふえないというところで行くと、例えば眼科の白内障の手術であるとかそういったものを、当院眼科の先生は2名しかおりませんが、その中で今眼科の手術の待ちが結構あるものですから、手術日を1日ふやしまして、それらの方々になるべくお待たせをさせないように今変えているところでありますし、耳鼻科につきましては子供の風邪も含めて耳鼻科にはいろんな患者さんいらっしゃいますし、市内にも耳鼻科のクリニックさんが1つできたのもありますので、それは当院がこの地域で行うべき耳鼻科の中でも急性期の部分をしっかり担っていけばいいのではないかなというふうに考えております。

○委員長 辻 勲君 他にご発言ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

これで質疑を終わります。

続いて、討論に入ります。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これより議案第6号を採決します。

本案を原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ご異議なしと認め、原案のとおり可決されました。

◎散会宣告

○委員長 辻 勲君 以上で本委員会に付託されました議案第1号から第6号までの各議案の審査を全て終了しました。

これで第1予算審査特別委員会を散会します。

どうもありがとうございました。ご苦労さまでした。

散会 午後 3時15分

委 員 長